

受検番号	氏名

平成21年度

神奈川県立中等教育学校入学者決定検査

# 適性検査Ⅱ

(45分)

——— 注 意 ———

- 1 「はじめ」の合図があるまで、この検査用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は **問4** まであり、1ページから10ページに印刷されています。
- 3 問題をよく読んで、答えはすべて **解答用紙** の決められた欄らんに書きましょう。
- 4 「やめ」の合図があったら、とちゅうでも書くのをやめ、筆記用具つくえを机の上におきましょう。

**問1**

次の文章を読んで、あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

わたしの家のハムスターが子どもを産んでから、3週間ぐらいたった日のことです。同級生のゆうこさんが家に遊びにきました。

2人でかごの中のハムスターたちのようすをながめていると、ゆうこさんが、

「本当にかわいいね……。あきこさん、わたし、この小さなハムスターを育てたいな。もらってもいいかな。」

と、1ぴきのハムスターを手のひらにのせて言いました。

「もちろんよ。でもどうして、そのハムスターがいいの。」

わたしがたずねると、ゆうこさんは、

「うん……。なんだかこのハムスターが、わたしを大きく育ててちょうだいって言ってる気がして、育ててみたいの。」

と答えて、そのハムスターをやさしく見つめていました。

そして、いっしょに名前を考えることになりました。

「あきこさん、親ハムスターの名前はなんていうの。」

「ミントとララよ。」

「親ハムスターはミントとララか……。」

ゆうこさんはしばらくの間、考えているようでしたが、

「じゃあね、『ミラ』っていうのはどう。」

と言いました。とっさに、わたしは、ゆうこさんが、という理由で、その名前を考えたんだなと思いました。しかし、ゆうこさんは、こんな話をしてくれたのです。

「冬の夜空に見えるクジラ座には、明るさが変化する『ミラ』という赤い星があるの。『ミラ』は『不思議な』という意味なんだって。わたしね、このハムスターの命の<sup>たんじゆう</sup>誕生に、いくつもの命がつながっていることが、不思議だなと思ったの。だって、このハムスターには、ミントとララの2ひきの命がつながっているでしょう。そして、もう1つ前のおじいちゃんやおばあちゃんの世代にさかのぼると、さらに4つの命がつながるのよ。そのもう1つ前の世代にさかのぼると。ええと……。」

わたしは、なんだかゆうこさんのこの話にとっても興味を覚え、

「『ミラ』か……。1世代前は2つの命が、2世代前は4つの命がつながるのね。3世代前なら……。いえ、もっとさかのぼって10世代前はいくつになるのかしら。」

と言って、それぞれの世代でミラの命につながる命が、いったいいくつになるのかを考え始めました。

わたしが図をかきながら考えていると、ゆうこさんが、  
「わたしの計算では、3世代前の命の数は  , 10世代前の命の数は  よ。」

と教えてくれました。わたしは思わずこう答えました。

「へえ。そんなに多くの命が、ミラへ命のバトンをつないできたんだね。そう考えると、本当に不思議、『ミラ』だね。」

- (1)  について、あきこさんは、ゆうこさんがどのような理由で名前を考えたと思ったのか、ふさわしい理由を書きましょう。
- (2)  ,  にあてはまる数を、それぞれ書きましょう。
- (3) 次の〔資料〕の下線部について、あきこさんが日記を書いたときに思い返したことを、「～とゆうこさんが言ったこと」が続くように、40字以内（句読点をふくむ）で書きましょう。

〔資料〕この日のあきこさんの日記

今日、ゆうこさんが家に遊びにきました。

ゆうこさんの言ったことを思い返してみると、ゆうこさんの命に対する深い思いを感じ、わたしは、命のつながりについて考えることができよかったです。

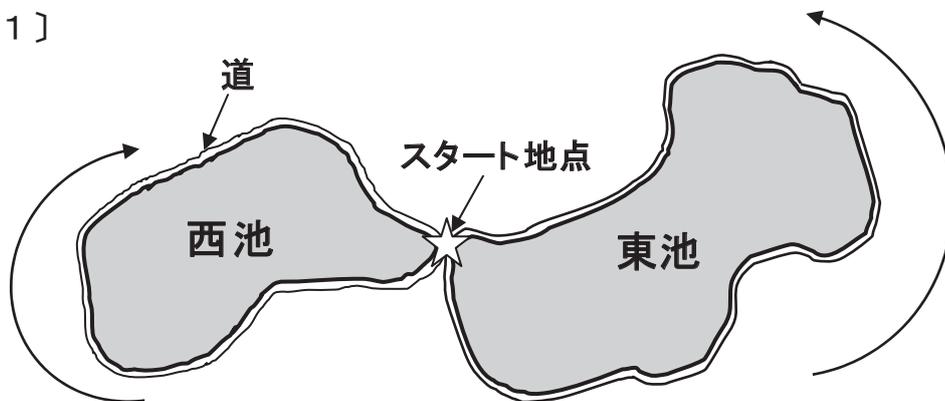
**問2** たけしさんたちは、池のある公園へ遊びにきています。あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

(1) 次の〔資料1〕のように、2つの池のまわりには、それぞれ一周できる平らな道があります。

スタート地点から同時に出発して、たけしさんとさやかさんは<sup>ひがしいけ</sup>東池の一周2.2kmの道のりを、あきこさんとかずおさんは<sup>にししいけ</sup>西池の一周1.7kmの道のりを、それぞれ一定の速さで歩き続けてスタート地点にもどってきました。

あとの〔会話文〕をもとに、かずおさんの発言にある下線部について、なぜそう言えるのか、数などを示して理由を具体的に書きましょう。

〔資料1〕



あきこさんとかずおさんが歩いた一周1.7 kmの道のり

たけしさんとさやかさんが歩いた一周2.2 kmの道のり

〔会話文〕

たけしさん 「午後2時に、同時に出発したけれど、あきこさんたちは、何時にもどってきたの。」  
あきこさん 「わたしたちは、午後2時30分にもどってきたのよ。」  
さやかさん 「それでは6分間待たせてしまったのね。」  
あきこさん 「だけど、たけしさんたちの方が、歩いた道のりが長いでしょう。」  
かずおさん 「そうだよ。それでもぼくたちの6分後にもどってくる  
ことができたのは、たけしさんたちの方が、ぼくたちより速く歩いてきたからだよ。」

(2) たけしさんが、さやかさんたちに、5種類の葉の組み合わせによってできる和について考える問題を出しました。次の〔資料2〕,〔資料3〕をもとに、あとのア、イの各問いに答えましょう。

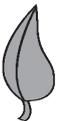
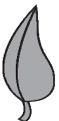
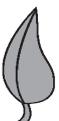
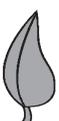
ただし、葉は、の色をぬってある方が表おもてを示しています。

〔資料2〕問題のルール

① 5種類の葉の表は、それぞれ異なる整数を示し、が示す数は1です。  
注) 異なる:ほかのものと同じではないこと

② どの葉も裏うらが示す数は0です。

〔資料3〕5種類の葉の組み合わせによる整数の和

【5種類の葉の組み合わせ】	【和】
     →	6
     →	13
     →	17
     →	18
     →	<input type="text" value="ア"/>

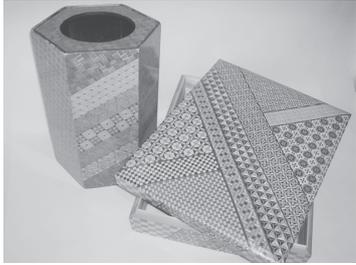
ア 〔資料3〕の  にあてはまる数を書きましょう。

イ 葉の表だけを合計5枚まい使って、和が36になる葉の組み合わせを2つ考え、それぞれの組み合わせに使う葉の種類ごとに、必要な枚数を書きましょう。ただし、同じ種類の葉を2枚以上使ってもよいこととします。

**問3**

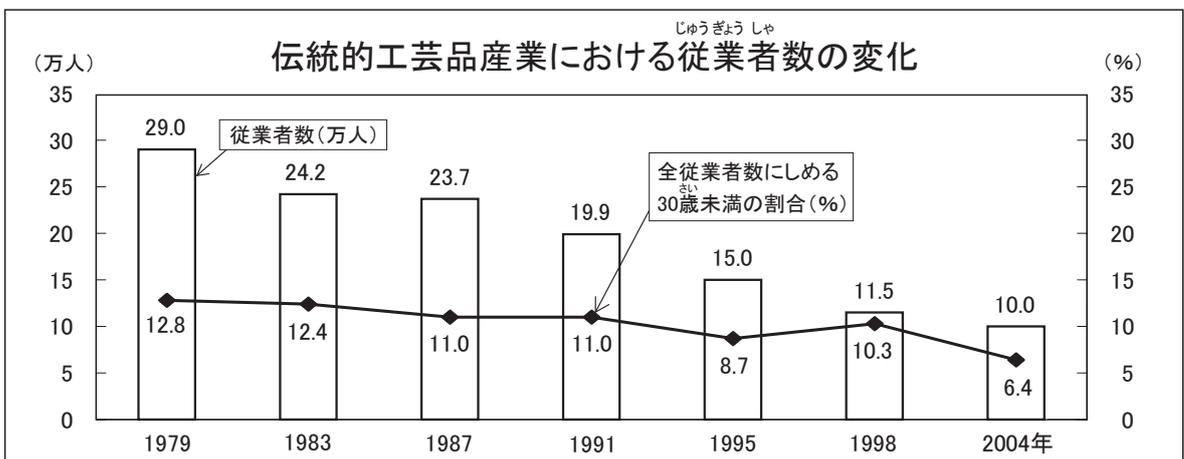
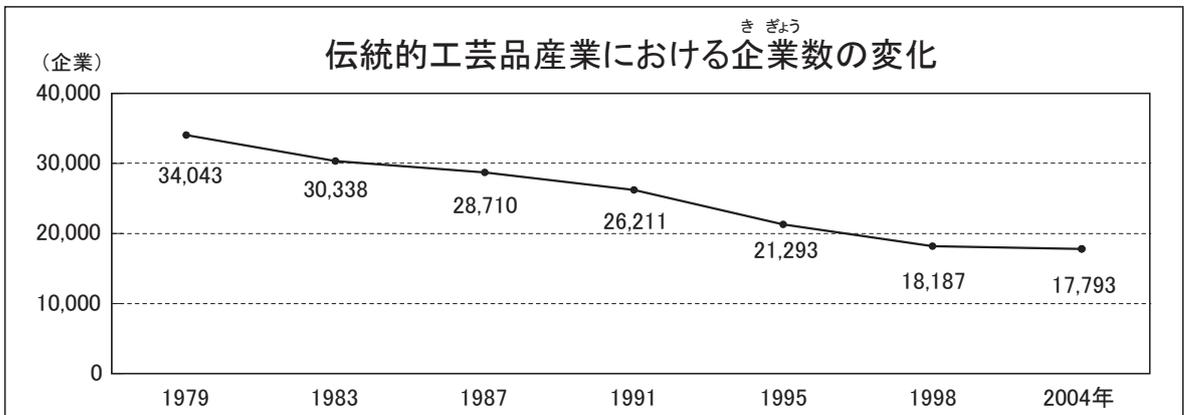
さやかさんたちは、伝統的工芸品について調べました。次の〔資料1〕、〔資料2〕と〔会話文〕をもとに、あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

〔資料1〕 神奈川県の代表的な伝統的工芸品

<p>かまくらぼり <b>鎌倉彫</b></p>  <p>鎌倉時代に始まり、天然の材料と伝統的な技術で、日常に使う木のぼんや器などに、力強くちょう刻<small>ちようこく</small>などをし、注<sup>1)</sup>うるしをぬり重ねて作る。</p>	<p>おだわらしっき <b>小田原漆器</b></p>  <p>室町時代の中ごろに始まり、注<sup>2)</sup>ろくろを使ってけずった、ぼん、わん、皿などの器に、自然の木目をいかした独特のぬり方でうるしをぬって作る。</p>	<p>はこねよせぎざいく <b>箱根寄木細工</b></p>  <p>江戸時代の終わりごろに始まり、天然の木材の色や木目をいかし、木を組み合わせてできた模様を、うすくけずって箱にはったり、器に加工したりして作る。</p>
--	---	---

注<sup>1)</sup> うるし：うるしの木からとった液をもとにした塗料 注<sup>2)</sup> ろくろ：木をけずるために回転させる工具

〔資料2〕 全国の伝統的工芸品産業の現状



(「伝統的工芸品産業審議会答申」などにより作成)

〔会話文〕

さやかさん 「神奈川県には、伝統的なすばらしい工芸品があることがわかったわね。」

あきこさん 「わたしたちが調べた〔資料1〕からは、3つの工芸品に共通点があるわね。たとえば、。」

たけしさん 「〔資料2〕の全国の伝統的工芸品産業の現状については、1979年と2004年を比べると大きく変化していることがわかるよ。」

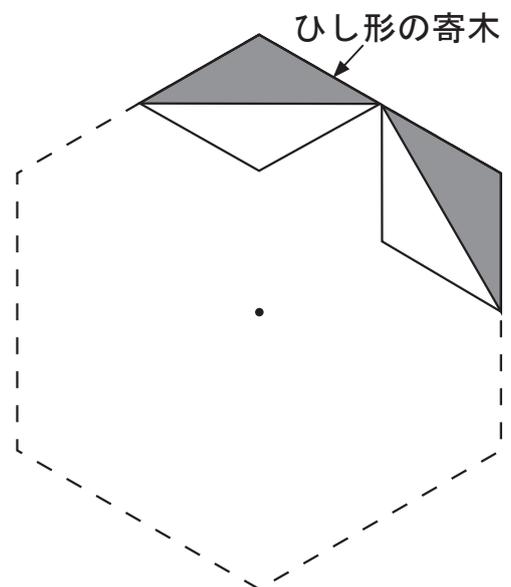
かずおさん 「神奈川県でも同じ変化がみられるそうだよ。このようなすばらしい伝統は、大切に伝えていきたいね。」

(1) あきこさんの発言のについて、〔資料1〕から3つの工芸品の共通点として、ふさわしい内容を書きましょう。

(2) たけしさんの発言の下線部について、次の表の, にふさわしい内容を、それぞれ書きましょう。

企業数	約 $\frac{1}{2}$ になっている
従業者数	約 <input type="text" value="イ"/>
30歳未満の従業者数	約3万7千人から約 <input type="text" value="ウ"/> 人に減少している

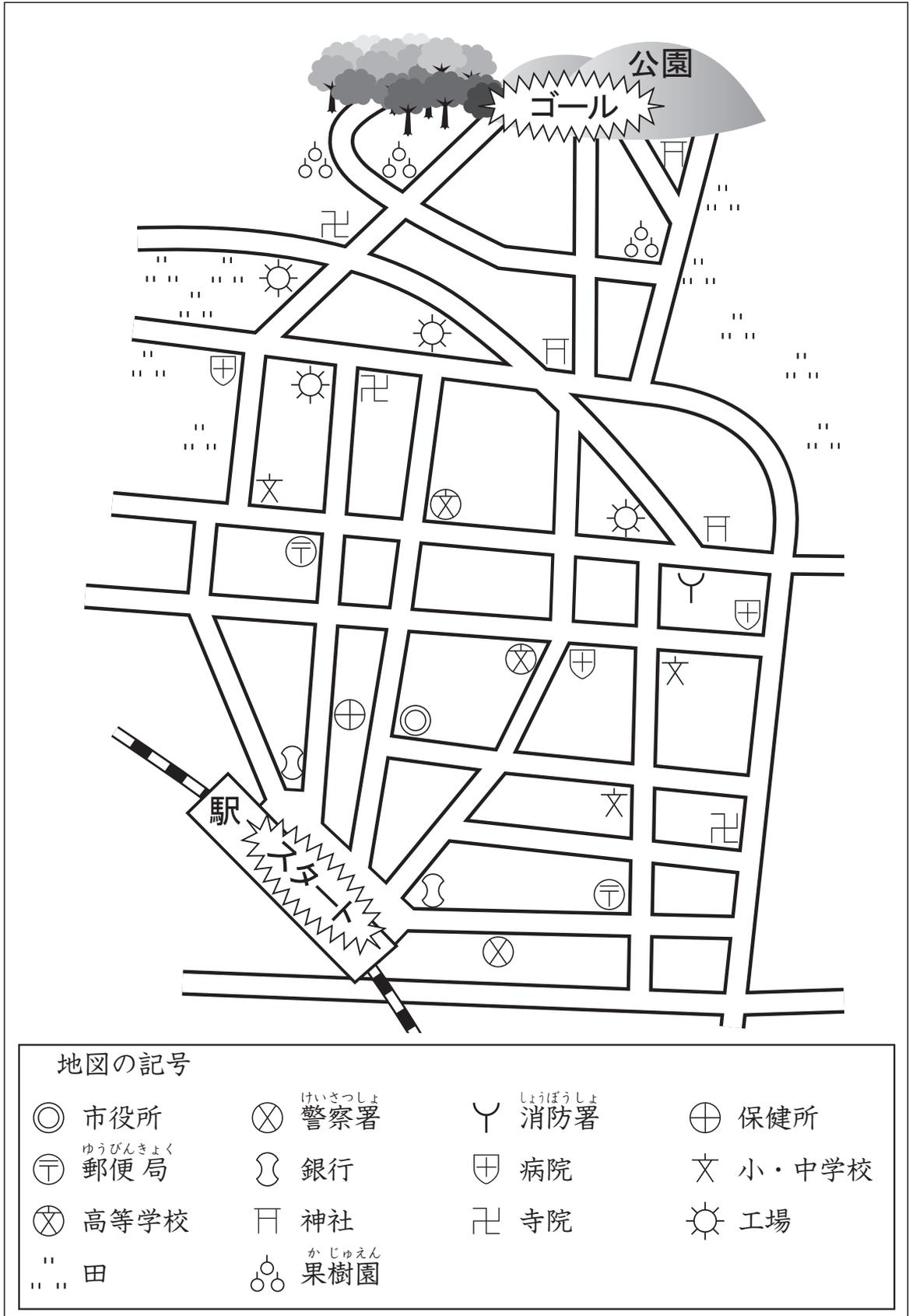
(3) かずおさんたちは、箱根寄木細工の「コースター作り」を体験しました。右のような正六角形のコースターを完成させるためには、ひし形の寄木をどのように組み合わせるとよいのかを図に表わしましょう。また、ひし形の寄木が全部で何個必要なのかを書きましょう。



ただし、図の2個のひし形の寄木はこの位置に置くものとします。

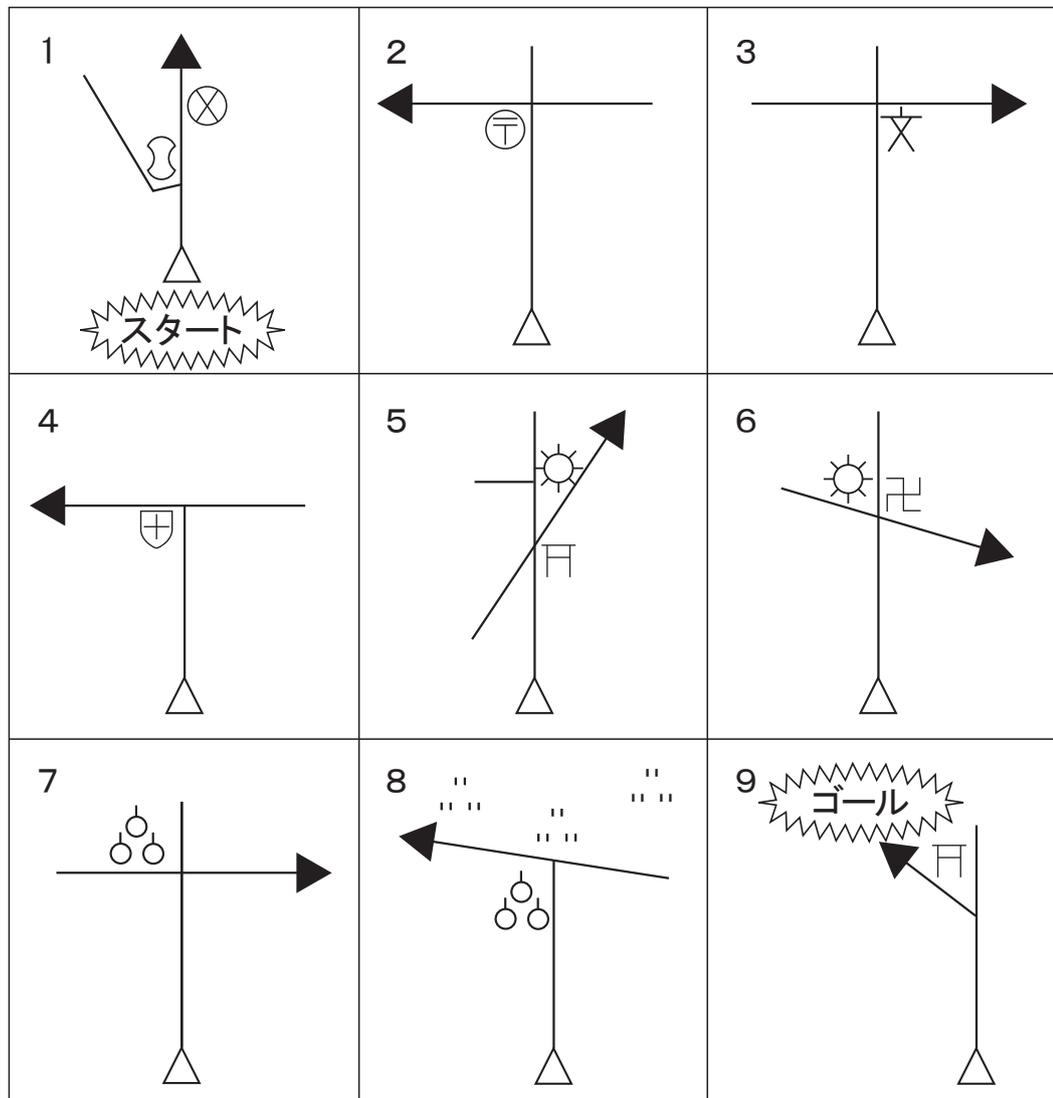
問4 たけしさんたちは、〔資料1〕の略地図に示された町を、駅から公園まで歩きました。あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

〔資料1〕略地図



(1) たけしさんたちは、この町を〔資料2〕「進行方向指示図」の1～9の順に歩きました。駅（スタート）から公園（ゴール）までの正しい道すじに、1本の線を引きましょう。

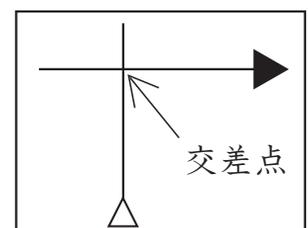
〔資料2〕「進行方向指示図」



※「進行方向指示図」について

・ △が現在位置を，▲が進行方向を表します。

・ 右の図のような場合には、交差点を右に曲がることを意味しています。



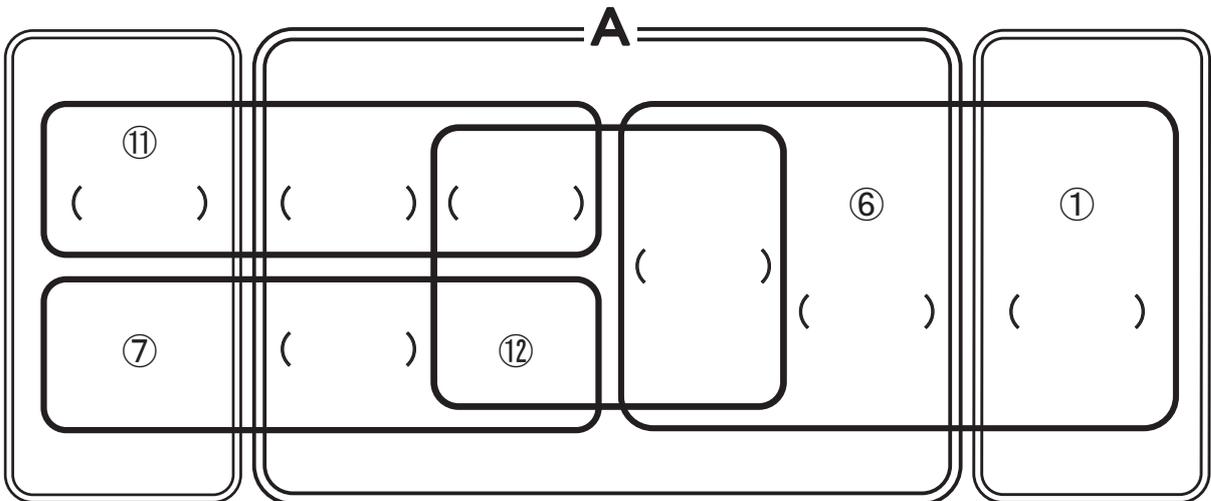
・ 「進行方向指示図」がない交差点は直進します。

(2) たけしさんたちは、歩きながら見つけた〔資料3〕の道路標識について、標識の形と標識の中に書いてあるものをもとに、〔資料4〕のように道路標識の①～⑫の番号を使って仲間分けをしています。あとのア、イの各問いに答えましょう。

〔資料3〕 道路標識

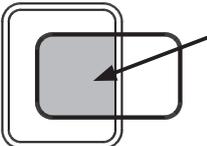


〔資料4〕 道路標識の仲間分け



※道路標識の仲間分けについて

・  のわくは標識の形をもとに仲間分けを、また、 のわくは標識の中に書いてあるものをもとに仲間分けをしています。

・  たとえば、このように2つのわくが重なる部分は、 と  の両方の持ちょうをもつ仲間を表しています。

また、3つのわくが重なる部分は、3つの持ちょうをもつ仲間を表しています。

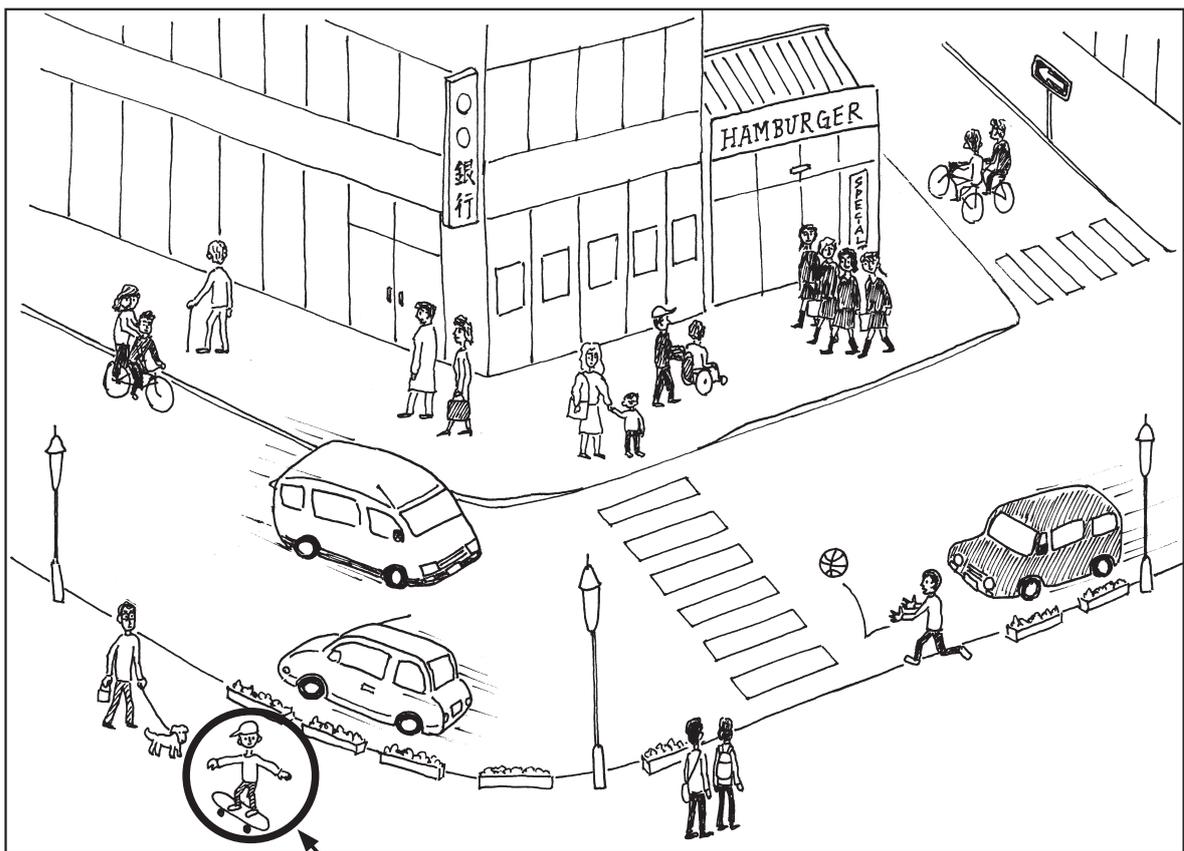
ア [資料4] で A のわくに仲間分けした標識の形の特ちょうを書きましょう。

イ [資料4] の仲間分けが完成するように、[資料3] の残り7つの道路標識の番号を、図の中の ( ) に、それぞれ1つずつ書きましょう。

ただし、それぞれの標識の色の種類やこさのちがいは、仲間分けに関係ありません。

(3) [資料5] は、駅前的一部分のようすです。交通のルールやマナーを守るという意味から、直した方がよい人の行動を3つ見つけ、次の〔書き方の例〕のように、その場面を線で囲み、矢印で示して内容を書きましょう。

〔資料5〕



〔書き方の例〕 ( Skateboarder ) 歩道でスケートボードをしている

※これで問題は終わりです。

